

第18回 議会報告会(意見交換会:ワールドカフェ形式) 【総務市民常任委員会】

	公助	共助	自助	全般(その他)
午前	○各自治会毎でも防災グッズや避難食を準備しているが、小地区公民館では、限度があると思う。 ○天拝山ふもとにあるため池の保安 ○近年の山火事が多発していてどう対処すればいいか。 ○災害が発生した際、公共交通機関が弱い地域に対して、何らかの対策があるのか。 ○西鉄二日市駅西口の交番が東口へ移動となったが、相変わらず西口方面の方が事件が散発しているかと思われる。何かしらの手を打てないものでしょうか。 ○防災訓練を年2回行っているが、どうにも型にはまった形になっている。規模にあった形を知りたいと思っているが、、、 ○側溝等の機能点検(河川の雑草を含む)日頃の整備を望む。市庁舎の広場は、水溜りがあるが非常時大丈夫か。 ○宝満川に砂が堆積していて底が上がり、大雨の時は、水が土手を越えて田畑に被害が生じる恐れがある。 ○私が住む下中阿志岐地区は、宮地岳のふもとに住宅が点在する場所で、大雨・大地震や山家事の際は、被害が大きいと思われます。公民館も山の傾斜にあるので避難所にできない。 ○宅が多いので、考えが及びません。公に求める事は、被災者への援助がなるべく早く届くように願っています。 ○TKB(トイレ・キッチン・ベッド)の充実。簡易トイレは段差があり、和トイレはひざの悪い方が使いづらい(立てなくなる)トイレカーを購入してもらえないか。 ○キッチンカーの導入は、災害時の炊き出しに便利なことや、災害フェスタにも展示でき、アピールもできる。 ○農村部では、避難に限られる。(コミセン・ホテルに逃げる人も) ○避難所で寝る場合は、床に雑魚寝の状態なので、ほこりとか吸い込み健康的に問題。段ボールベッドの購入をお願い。 ○人工呼吸器を使用する子どもさんをお預りする事業所を営業している。停電の際の電気・発電機の補助の有無、自発電の工夫。 ○福祉避難所の場所や手順マニュアル。病院との連携もこれから行っていくのだが、指定病院とその窓口はある？ ○自力のみでの避難が困難な近隣の方の支援も可能(障がい児者の事業所)看護師・介護士・保育士在中支援者登録などあるのか。 ○外国人の支援(言葉等) ○避難時のペット対応 ○阿志岐小学校は、立地が低く、避難所にならないらしいので、何らかの対策をお願いします。 ○インクルーシブの精神を市が普及させて欲しい。 ○避難所のエアコン ○外国人との共存 ○市の防災課の働きが良く分からない。 ○市の備蓄品を知りたいが、教えてもらえなかった。 ○救助ロボットの活用 ○インクルーシブの視点 ○市の避難者登録制度は、実際に機能するのか。民生委員も高齢化しており、現実には動けるのか。検証してほしい。 ○水不足。水源確保。 ○隣組を対象とした計画を市の防災課が主導して、計画して欲しい。老人一人暮らしが多いと思うので。 ○防災訓練の参加者を増やす対策。訓練の在り方の見直し。 ○ボランティア及び炊き出し部隊の 入れのスムーズな対応。 ○子ども達へ学校教育でハザードマップの啓発を。 ○ハザードマップの重要性の啓発を市が行うべき。 ○市役所の前広場に部分的にでも屋根が必要だと思う。 ○災害関連死。避難所の環境。 ○市民へホームページで、消防・警察・市役所(人員)の連携。 ○避難グッズ・プライバシー対策・段ボールベッド・簡易トイレは在る？ ○地区公民館の防災対策。避難所としての機能強化。 ○避難場所まで行くのが大変(コミセンまで) ○避難場所まで行くのに危ない所がある。 ○要支援者登録。本人の申出だけではなく、近所の民生委員福祉関係からの意見も提出してできないか？ ○行政関係各課と民間関係者のプラットフォームを作れないか。必要です。 ○非常時の対応。学校との連携。帰宅経路の選定。(地震・水害別で) ○防災セットの配布(3日分) ○大雨の時、公民館に子どもを一時避難。学校からお迎えに来てと言われる。水没などで夜中にやっと迎えに行けた方もいる。小学校は二次避難所なのに検討して欲しい。 ○地域の連絡手段	○自治会内に防災委員会設置活用 ○防犯パトロール ○公民館環境整備 ○高齢者や一人暮らしの家庭が多く避難が難しい。 ○私の地区では、高齢化が進んでいて一人暮らしも世帯もあり、民生委員や福祉委員との連携を進めている。隣組の機能が動いていると言い難い。 ○隣近所との交流があまりないので、地震などの時が不安です。 ○隣組単位での絆をもっと強めたいです。(ご近所でも顔を合わせることが少ないです。) ○山沿いに家が集中していることを知っておく必要があり、机上訓練も必要。 ○町内会に入会する人が減り、自治力が弱まっている。誰が担うのかが、大きな課題。 ○各地域のハザードマップの作成・防災訓練 ○若い人が住んで居るけど町内会に入っていないので老人は孤立しています。 ○自治会の高齢化 ○自治会に加入して欲しい ○年代に関わらず、自治会の退会がある。※回覧板が回せない。 ○災害対策(自治会ごと)の特性あり ○自治会によるコミュニティの拡充 ○要配慮者の方々の把握と日常のコミュニケーションを自治会でいかに進めるか。 ○高齢者との交流。将来の安心。 ○防災ボランティア(よかよー)を立ち上げ防災に対する意識は高めではとこです。山家 ○隣組で氏名・電話番号を周知している。(公開)山家9区 ○地域の防災士の存在が薄い。 ○要支援者の情報共有が十分ではない。 ○隣の人と仲良しになり、いざの時声かけ合う。 ○学校の訓練を地域と一緒に行う。 ○LINEで緊急連絡網を展開している(みかさ台) ○一人暮らしの高齢者に対する対応 ○山家9区 区の居住者同士でのつながりができており、若い人が多いが朝の通学でも共に行っている方が多い。	○簡易トイレ二個常備、非常食3日分常備、室内転倒物点検 ○福岡地区は、地震などの災害に対する意識が希薄であるようで、非常持出品などの防災備品の備えが各世帯で少ない。 ○大地震などでインフラの被害が生じても行政・業者等が素早く回復させてくれると考える人が多い。 ○避難時の携帯品目の目安(おおまかな)を示して欲しい。(最低ライン) ○自分のことは自分で出来るので、今のところは台風が来るというビジネスホテルに行くようにしています。しかし、それが出来なくなった時どうするか不安です。 ○自宅では昼間一人なので、イザ!!という時に、どう動くかはイメージできているつもりです。次の共助もご近所で昼間はほぼ留守。 ○(水害防止)建設時に床面を上げる。 ○市で決められた避難所に行きにくい(ひどい坂とか道が複雑とか) ○マンション居住者が増えている。防災体制は、大丈夫か。気になる。防災訓練も必要だが、、、。 ○マンションも居住年数が長いと、独居高齢者が増えている。住民の交流がないので、災害に対し不安もある。 ○家族との連絡網方法を訓練できるようにする。防災グッズを各家庭で用意しておく。 ○東日本大震災(千葉)震度6弱・5分間の揺れ。帰宅困難・小学校体育館に避難、防災グッズを携帯していない、計画停電もあり。 ○自宅以外にいるときの防災グッズの準備 ○マンションの防災意識が低い。 ○防災で一番頼りになるのが「自助」であることをもっと市民の方々に認識してもらおう。周知とセミナーが必要。 ○自助の意識が大切 ○一人住まいで早めの避難が大切 ○地域的には安全な所。宇美断層の吉木小近くのため、地震が怖い。 ○山家9区 各宅に非常食等の備えを行う様に指導したい。	○当市は、隣接市に比べ公道等の整備が遅れている様に感じる。住みたい町・安全な町を目指すなら環境創造を計って欲しい。 ○少し前、7千円頂きましたけど、全戸に配るより防災、道路整備をよくするようなことに使ってほしいと思いました。 ○支援物・避難時の医療受け入れ ○感染症対応 ○風当たりが強い所に住んでいるので風害も恐ろしい。 ○障がい者支援 ○防災意識が地域で差がある。 ○身体の不自由な方の支援 ○通信・鉄道の踏切分断 ○避難所でのトイレ、衛生面での能力、機能、数量の最大化 ○御笠地区には、防災士資格を毎年、数名ずつ増えており、昨年度は各公民館で、水害、土砂災害の危険性を伺った。 ○ここ数年は、御笠地区にはゲリラ豪雨が降りませんが、もし全国に発生しているレベルが発生したら道路の2～3m上まで、水位が上がるとの事で高さの有る避難所が必要 ○地震のトラウマが残る。 ○トイレカー・トイレトレーラーの計画的増加と日常的運営(イベント活用)による認知度アップ(ドライバー、管理の問題含む) ○防災会は確立しているが、高齢化により会員が減っている。若い人の加入をいかに進めていくか問題。 ○地震の知識が乏しいので、こうなったら⇒こうするアプリなど開発 ○マンションが壊れる、地震、火事、恐い。

第18回 議会報告会(意見交換会:ワールドカフェ形式) 【総務市民常任委員会】

	公助	共助	自助	全般(その他)
午後	○竜岩自然の家・射撃場を避難場所にと要望した。 ○災害指定地域の住民の避難場所 ○個別避難計画が活用されていない。実情に合った支援ができていないのでは？社協？ ○要支援者について 区長への情報開示が年度はじめにし、知らされていない。 ○要支援者登録制度に、支援者がいるなら相談支援専門員さん避難計画立ててほしい。ケアマネいない人は、社協⇒個別避難計画 ○防災教室を小中学校の授業の中に入れて欲しい。 ○御笠地区 避難する道路が危険 ○リアルな防災訓練をした方がいい。せめて、地域の連絡、市に連絡を入れるまでをする。 ○各公民館とコミセンをつなぐ無線を取り付けるべき。 ○各団体との連携がなされておらず、情報共有が必要。 ○大石地区(御笠自治会バス)竹が倒れかけている。地権者に委ねられている。 ○人員の育成(災害知識等) ○防災備蓄について 広報 ○視覚障がい者は、みれないから避難訓練にあってもわからない。掲示板(マンション)は、ヘルパーさんにみてもらう。 ○聴覚障がいの方は、音が聞こえない。視覚的な支援がないといけない。ヘルプマーク等の札が必要。 ○ヘルプマークの周知。見た目で判断がつかない方がいる。 ○トイレ対応は。充分対応できる器具は充分か。 ○防災士の位置付がない。 ○防災士の活動、防災士の活用 ○防災士の活動が生かされていない。どうしたら良いのか困っている。 ○役所前広場で車中泊避難体験⇒市民同士の交流 ○南海トラフ地震がきた時は、全国規模になる。⇒自衛隊が来ない⇒想定外を想定しておく。 ○4S中、3Sは高齢者。防災訓練でてこられるが。障がい児を抱えた人の対応。D・WATと市町村の連携がきになる。 ○太宰府市は、ペット避難所はあるが、山頂付近なので行けない。 ○「ペットの対応」人と同様にペットは置き去りに。どこに連れて行けばいいか。ペットは対応が見えない。 ○竹林の管理・整備。行政の考えは。無償でできない。(機器貸出)風水害対策。 ○ペット連れの避難について ○森林ボランティア⇒水問題や山崩れなどの意識を高める⇒道具の使い方。 ○御笠コミュニティ(防災部会)避難所レイアウト(高齢者・子ども・年齢) ○南海トラフ地域は、危機意識が高いが、この地域は安全という意識がある。市の姿勢がみえない。 ○避難所の収容人数のキャパについて 指定されてる避難所が公民館が主になっていますが、マンションが多い地域ではマンションの大人数は収容できないのではないかと思います。石崎は、公民館でなく、コミセンや市役所を避難所に指定してほしい。 ○避難所について 筑紫野市は、ペット同行避難所はあるようですが、同伴避難所がないので、災害時に大切なペットと一緒にいられないのは心配で、結局避難は難しくなります。同伴OKな避難所を作って欲しいです。 ○避難場所わかりやすいマップを。色々な所で目につくように。 ○逃げ場がない(阿志岐地区) ○危機管理課がコミュニティに情報提供してくれない。 ○地区防災計画を地域に丸投げされている。 ○市の地域防災の方針が定まっていない。 ○危険度が上がっているが、地域(区)に告知がない。 ○行政が発信する情報が少なすぎる。 ○阿志岐は避難場所がないので、対策すべき。 ○公民館も建て替えができない。取り残されている。	○誰に助けを求めたらいいか。 ○個人情報ネックになるケースが発生するのは。 ○孤立している方への支援が必要。 ○急な災害が起こった際に独居老人の方や体の不自由な方に声を掛けたいのですが、近所にどのような方が住んでいるのかも分かりません。各所にコミセンなどあるので、そういった場所を利用してもっと地域の交流を深めたい。しかし、人が集まるような魅力的なイベントがない。 ○行方不明の捜索協力として、高知県や大牟田市は中学生を活用した。 ○共助とは。隣組は疎遠になった。 ○集合住宅の高齢単身世帯についてマンションが多く建っている地区で単身世帯と思われる高齢者の方が1人で休み休み牛歩で歩かれている場面を時々見ます。介助もついていない様なので、こういった方の避難時の手助けなどの段取りつてないんじゃないかと思って気になっています。 ○社協の役割を知らない。⇒ボランティアセンターの立ち上げ ○PTAと子ども会と地域をつないで助け合う仕組みを作りたい。 ○一人の老人を隣組で把握できているのか。本人⇒子ども⇒連絡先	○備蓄のローリングでその間無事だったことに感謝した。 ○90歳近い方が倒れているのを発見したが、連絡先は組長しか知らず困った。近隣に知らせたい。「個人情報」で緊急に間に合わない。 ○阿志岐は話が広がりやすい169人(86男・83女)関係が希薄になっている。老人介護、連絡がとれる仕組み(LINE)を作った。要援護者が倒れているのではと心配したが、連絡がとれず困った。民生委員に緊急連絡先を伝えて欲しいと話した。 ○ハザードマップ確認。水と食料のストックしたい。近所付き合い必要!! ○防災意識が大切。経験しないとわからない。 ○防災リュック。夏と冬では中身が違う。 ○市民意識の向上	○防災士の資格を取っても災害現場に行かない。 ○災害ボランティア活動で、経験をする機会を作って。 ○山間部における山林火災の対応について ○防災講座を若い人にするには？20代～60代 ○県の養護学校を避難場所にしては。食堂等もあり、区と学校で協定を結ぶ等対策をしては。 ○民生委員の対応は、どうしているのか。区長・民生委員等の仕事 ○親子防災キャンプが9月頃行われるように決まっている。⇒マンネリ化 ○山口小学校は、浸水するのでは。対応は。 ○空き家対策。管理できていない。 ○二日市東小のプール下の水道を改善(真っ直ぐな水路に)Z字になっているから。(身障者会会長みぞた様より) ○二日市東小の学童の通路40mないところに3人位立っていないと危ない。中原・針摺にいくところ、200人通る、紫ヶ丘の方、校長に地主、娘さんに話してって言っているけど、土木課←熊手さん、森下BLしてくれた→A ○二日市東小の通学路 針摺⇒中原⇒安全対策 新任校長にも話済み。市長にも伝えた。←地主さんはじめOKやったけど、この〇〇は、やめにすると言われる。⇒お金出すけど、自分でやってくれ。 ○富士山噴火。物流止まる。との時のBCP ○危機管理意識のレベル差が激しい。 ○子ども向けの簡単な防災の動画等を配布 ○危機管理意識!! ○ハザードマップをもっと身近なものに。

議会報告会（意見交換会） ～ 議員と話そう！ワイガヤトークで想いを議会へ ～

2026/05/09（土）午前の部：10時～12時

午後の部：14時～16時

筑紫野市役所6階

ワールドカフェ形式

- 委員会：文教福祉委員会
- テーマ：こども館
- 班構成：午前…1班・2班・3班、午後…1班・2班

参加者から寄せられた主な意見・要望を、以下のとおり整理しました。

1. こども館に期待する役割・機能

（1）子どもが自由に過ごせる居場所

- * 家でも学校でもない「第三の居場所」が必要
- * 子どもが安心して集まれる場所
- * 年齢を問わず利用できる施設
- * 未就学児から高校生まで利用可能にしてほしい
- * 雨の日でも遊べる場所
- * 放課後や休日に気軽に立ち寄れる場所

（2）相談・支援機能の充実

- * 子育ての悩みを相談できる場所
- * 不登校やひきこもり等への相談支援
- * ワンストップで相談できる体制
- * 保護者同士が情報共有できる環境
- * 専門職（心理士・相談員・保育士等）の配置
- * 「誰に相談したらよいかわからない」をなくしてほしい
- * 貧困による衣食住を支援する場

（3）学習・体験・交流の場

- * 学習支援や自習スペース
- * 宿題や勉強ができる環境
- * 工作・音楽・スポーツ等の体験活動
- * 世代間交流ができる場

- * 子ども主体で企画できるイベント（中高生など）
- * 地域や企業との連携イベント
- * 遊びながらそれが勉強になる場
- * 講座やイベントが定期的に行われる施設

2. 施設・設備に関する意見

（1）設備面

- * 体育館・運動スペース
- * ボール遊びができる場所
- * 飲食スペース・カフェ機能
- * Wi-Fi 環境の整備
- * 防音設備
- * 安全面への配慮
- * バリアフリー対応
- * 広場など屋外で遊べるエリアも欲しい
- * 避難所としての機能も兼ねて
- * 図書館の機能も加えてほしい

（2）利用しやすさ

- * 利用料金は無料または低額に
- * 開館時間を長くしてほしい
- * 土日・夕方利用の充実
- * 公共交通で行きやすい場所
- * 駐車場の確保
- * 自転車でも行きやすい場所

3. 運営に関する意見

（1）多様性を尊重した運営

- * 子どもの自主性を大切にしてほしい
- * 「禁止ばかり」にしない
- * 一人でも安心して利用できる雰囲気
- * 障がいのある子どもも利用しやすく
- * 外国籍家庭など多様な家庭への配慮

（2）地域との連携

- * 学校・地域・行政との連携

- * ボランティアや学生の参加
- * 地域全体で子どもを見守る仕組み
- * 地域活動の拠点として活用
- * 民生・子ども担当の権限が弱すぎる
- * 子どもの名簿も出ない時代で不安を感じる
- * 学童の充実と併せて考えるべき（そうなると校区ごとの方がよい）
- * 高齢者も含めて全世代が集える施設にしてほしい

（３）制度やコンセプト、その他

- * 教育大綱、要領、権利条例を基に子育てプランを作り実践・情報発信していく場に
- * 市内１か所では来にくい地域もあるため分散してほしい（地域格差がないように）
- * 市内１か所集中ではなく、対象別・目的別に市内何か所かに分けて作ってほしい
- * こども館のような施設に行ける子と行けない子に分けて対策を考えてほしい
- * カミーマは場所的に子どもが通える所とは思わない
- * GPS も配布すべき（様々な情報が分かり、親とやり取りも可：品川区の事例）
- * 委託先の選定においては持続可能なものとなることを優先してほしい
- * 市外の人も訪れたくなるような魅力的な施設に
- * コミセン・公民館とのすみ分けを明確にすべき

4. 市民から特に多かった意見

- * 「安心して過ごせる居場所が必要」
- * 「相談機能を充実してほしい」
- * 「子どもが自由に挑戦できる場にしてほしい」
- * 「保護者も孤立しない仕組みが必要」
- * 「筑紫野市にも総合的なこども館が必要」
- * 「子どもたち自身の意見も反映してほしい（利用者目線）」

5. まとめ

今回の議会報告会には、午前 37 名、午後 23 名、合計 60 名の市民の皆さまにご参加いただきました。

一方で、参加者の傾向としては、比較的男性や高齢者世代の参加が多く、子育て世代の参加は限定的であったと感じています。

そのため、こども館に対する期待や必要性に関する意見がある一方で、現実的な課題や慎重なご意見も多く寄せられました。

特に、

- * 少子化が進む中で新たな施設が必要なのか

- * 維持管理費や運営費の負担をどう考えるのか

- * 本当に利用者が集まるのか

- * 既存施設との役割分担をどうするのか

- * 「こども館」という単独施設ではなく複合的機能が必要ではないか

など、将来的な運営や費用対効果を懸念する声もありました。

また、今回は「防災」「農業」など複数テーマで開催されたことから、必ずしも「こども館」を主目的として参加された方ばかりではなく、子育て当事者世代の声をさらに丁寧把握していく必要性も感じたところです。

文教福祉委員会としては、今回いただいた「期待の声」と「慎重な声」の双方を真摯に受け止め、

- * 本当に必要とされる機能は何か

- * どのような形態であれば持続可能か

- * 既存施設との連携はどうあるべきか

など、今後さらに調査研究を深めてまいります。

20260509_意見交換会(建設)まとめ

1. 農業1班

(1) 食育・地産地消・市民参加など

- ・パンも米粉をつかうようにするとよいのでは
- ・保育園などで体験している。いもほり、カレーづくり。野菜に親しむ
- ・福岡農業高校との連携をして、農地を利用してもらえば。
- ・産地直送直取引（じきとりひき）、収入をふやすことができるのでは
- ・4割の中山間地の農家を守る手だてが必要
- ・ちくしの産農産物を市内で消費した方が生産者のサポートになるのか？知りたい
- ・市民農園のしくみを知らせる
- ・ボランティアで関われるしくみ
- ・農業が生きる為の基本であることを幼少の時から教育すべき
- ・森林ボランティアのような、市民が関わるしくみがあれば

(2) 現状の課題・耕作放棄地など

- ・田んぼの空き地が増えていて、高齢者では管理は難しい
- ・獣害が多くなかなか対処が難しい
- ・今418戸が農家で、4割は中山間地で大規模化できない
- ・耕作放棄地で、何かつくれるようにしておくために作業をしている
- ・農産物（特に米）の流通組織も考えないと若い人がやりたがらない
- ・農業をやれば生きていける、しくみを国家としてつくる！

(3) 今後の方向性・国や世界の動き・支援など

- ・今後農業（米作り）の運営は巨大化、法人化を進めるのか、民間の参入を進んでいるのか、自給率の上昇を進める方法は？
- ・なぜ、輸入がよくないか→世界状況
- ・国の米価の決め方、農協のしくみに農家はしぼられている
- ・何があれば、農業を続けられるか⇒経済的支援

2. 農業1班－2

(1) 体験・市民農園・栽培関連

- ・自家栽培の野菜でまかなえる
- ・B型就労継続支援作業所、竹あかりなどに
- ・放棄竹林のメンマとしての活用、竹炭→土壌改良、ニオイ対策
- ・市民農園をもっとたくさん作って、その一画に肥料BOXを作っては
- ・ダンボールコンポストの肥料が出来たものを持って行って、利用する場所がない人のために肥料BOX（持って行く場所）があると良い
- ・有機野菜講座を開いている（15人位）が、コミセン取り組みの延長にしては
- ・体験は一生ものになる。イベント的なもので、畑に関心をもってもらうととても良い
- ・コミセンで米づくり体験をした
- ・イノシシのニオイがし、稲より草が大きくなった
- ・日本のお米は世界一、コメ作りを

- ・市民農園と違うところで、梅干し、ジャム、漬物、持って帰れるものを作ろう
- ・市が体験の場をつくる→コミセン

(2) ②就農・組織化・課題関連

- ・就農にもたらされる戦略、法人、組織等、試食
- ・会社組織などで収入を安定してはどうか
- ・みそ作り、梅干し、ぬか漬→若い人にも伝えたい
- ・4割の中山間地をどうするか
- ・農業で生きていければそうしたい…という人もいる
- ・就農したいけど…、3Kではなく、機械化のすすんでいる、大規模化でもできる
- ・市民農園は減っているか見に行ったらなくなっていた
- ・表示をみて国産をえらぶ
- ・市が業務委託できるように
- ・自給自足できるように→地域で地産地消⇒自産自消
- ・減反→よくない政策かも知れない。地元でとれなくなっている。

(3) 国・全体の方向性関連

- ・食糧は外交カードになる。国際的にも重要。食料安保（あるいは食糧安保）！！

3. 農業2班－1

(1) 国・全体の方向性関連

- ・農業従事者はいるのか、水田はどうなっているのか
- ・国の政策、政策、自給率を上げる。
- ・中山間地域にも土地区画整理
- ・休耕田の活用
- ・農業でやっていけるか？

(2) ②鳥獣害対策・機械など

- ・シカの柵
- ・竜岩（香園）の市民農園が鳥獣被害で廃れている
- ・シカの害が増えた（イノシシ減）
- ・防護柵を市が補助すべき
- ・中山間地のみ。変更していったほしい。・テラス水田等では？
- ・鳥獣（ちょうじゅう）対策
- ・草刈り機（ラジコン）のシェア

(3) 連携

- ・農業試験場と連携できないか

(4) 市民参加・体験・堆肥など

- ・八女の山村塾、基山にも団体がある
- ・新聞に載っていた糸島市の棚田オーナー制度がすごい！
- ・畑のレンタル等あればいいな…生ごみコンポストも

- ・収穫して料理教室交流会
- ・子どもが体験できる機会がほしい。
- ・子どもが体験できる場所があればいいな…と
- ・課金制のゲーム感覚で参加できる仕組みを
- ・祖父母と孫で作業する農業体験イベントなどするとテレビ報道されていたのでやってみては。
- ・子どもも巻き込んで！
- ・休耕しているところを市で借りて市民に貸す。
- ・多様な人を農業に巻き込めないか。ex. 障害者、市民農園
- ・高齢農業者の活躍の場
- ・農業への参加への誘導（仕組み化する）

（５）雇用関連

- ・外国人を雇うならタイミーなど活用して、日本人を雇うべき

（６）有機農法、減農薬など

- ・自然農法を推進してほしい
- ・輸入する農産物は防腐剤を多く使われているのでは。

（７）ブランド化や PR など

- ・野菜、米のブランディング→道の駅を作る
- ・食の大事を PR すべき
- ・市役所での野菜販売をもっとインスタで発信

4. 農業２班－２

（１）①応援体制・人材・地主

- ・農家への応援体制を作る
- ・シルバー人材の有効利用
- ・農業しない地主より市が借り入れて農業できる人に依頼する。市が中心となって機械等を準備する。
- ・グループ化して連携する
- ・スポットワーク
- ・市が仲介して、出稼ぎ
- ・米や野菜をおみやげ・乗合バス、クーポン等
- ・タイミー

（２）新規参入・地域活動など

- ・JA が中心になって新規参入を受け入れる
- ・みかさ台の取り組み、子ども農業体験、かまど神社と連携

5. 農業３班

（１）①現状の課題・維持管理など

・農業体験等で若者を呼びこみ、町の一つのイベントの样にする。その為に誰かが中心になって動かなくては行けないが、誰がしているか？

- ・農業生産者が消費者と共に生産物の種類ごとに10年スパンで考える機会を作る。
- ・トラクター等機材が高騰している
- ・維持管理の難しさ
- ・高齢化
- ・もうからない
- ・鳥獣被害対策
- ・きつい仕事

(2) 初心者向け支援・役割など

- ・初心者向け AI 管理。
- ・分業する
- ・「農業」だけで生活できないなら、規模を大きくする方法も。
- ・食料自給率は何年前からも変わってない。というのは、生産量(1人あたり)が大きく上がっているのでは。

(3) 市民参加・教育連携・労働など

- ・市単位で市民がまかなえる分は確保
- ・「タイミー」すき間バイト、若者たちの農業体験
- ・時給1200円、楽しさを考える自然体験
- ・耕作放棄地を活用し、農業指導者のもと、農業をする。農地バンクも活用
- ・農業高校の生徒に市の農業について意見を聞く
- ・農業高校や大学の農学部系に貸す

(4) 地産地消・高校コラボ・農福連携など

- ・JAの倍(※JAの個数、またはJA関係の意か)を増やす
- ・特産物として
- ・高校とコラボ
- ・山中の手入れがされていないようなので、人が入ることで田園・山も緑を取りもどす
- ・農業委員会は何をする所？
- ・農業者に保証をしなければならない→市民が地産地消を広げる(PRする)
- ・地産地消
- ・農福連携で就労経験が少ない若者を取り込める
- ・林業の手入れされていないところが増えると山火事が心配、手入れ重要
- ・農業離れを止めるため、若者を中心にInstagramでアピール
- ・空き家+農地で農業をしたい人に貸す。

6. 農業4班

(1) 環境変化・自然相手の難しさ・経営など

- ・温暖化で野菜が枯れてしまう、実がつかない
- ・例えばキャベツを作り過ぎたら廃棄になる
- ・ソーラーシェアリングは太陽光の事業のみやって農業をしていない

- ・自然を相手にしているので難しい
- ・農業を株式会社にして利益が出る様な仕組み作りをする
- ・筑紫野産の野菜（枝豆）をもっと知りたい！！
- ・農業機械が高い

（２）担い手不足・高齢化・行政の役割など

- ・後継者不足
- ・離農者が川のそうじに来なくなる、地域でできないか
- ・行政のリーダーシップ
- ・農業従事者の高齢化
- ・日本の若者が農業しないんだったら外国人に頼る（たよる）しかない

（３）農福連携

- ・農福連携に興味（放課後デイ）